

風立ちぬ

第23号 令和6年2月16日(金)発行

= 「子どものために」今、親がすべきこと =

文責 佐藤正人



「親ばか〇〇さん、『あんたが息子(43歳)をダメにした』、

2億円新居をプレゼント、いまだにお年玉～」

データ整理をしていたところ、平成27年に、ある新聞に掲載された週刊誌の見出しの記録が出てきました。〇〇には、70歳代のある有名芸能人の名前が入ります。見出しの真偽の程はわかりませんが、裕福な家庭であれば、こういったこともあるだろうと頷かされます。

このような事例は極端ですが、私たちは親という立場で子どもが成人するまで、あるいはその後も自身の子どものために様々な援助を行います。子どもの年齢が上がるにつれ、その援助は徐々に少なくなっていきますが、「子どものために」という理由で行っている援助や保護は、場合によっては「子どものためになっていない」こともあるのではないかと考えさせられることもあります。

私もかつて行ってしまいましたが、「今朝は吹雪だ。歩かせるのはかわいそうだから学校まで車で送っていこう」、「今は受験勉強で大変だから、子どもの部屋の掃除は親がやってやろう」「毎日部活でがんばっているから、今日の夕ご飯も子どもの苦手な魚や野菜ではなく、好きな肉料理にしよう」、最近では、父にスマホを買ってもらった中学生の笑顔のコマーシャルについて「友達の中で、うちの子だけスマホを持っていないそうだから買ってやろう」など。このように、中学生がいる家庭でも「子どもが大変だから」あるいは「かわいそうだから」という理由で親が手を差し伸べることがありそうですが、本当にこれらの行為は子どものためになっているのでしょうか。本来的に私たちが「子どものために」すべき行為は、「子どもの将来のために」という思いがもとになっているはずで、この場合の「子どもの将来」とは、「20歳を過ぎて、自立した人間として、きちんとした社会生活を送れる将来」ということです。言い換えれば「子どものために」のあるべき姿は、子どもが自立して生きていける力、すなわち「生きる力」に結びつく援助になっているかどうかが重要と言えます。

動物は、子孫を残すことを遺伝子的に受け継ぎ、その子育ては本能的に子どもの自立の援助を基本としています。自立の妨げになるような過度の保護や援助は、遺伝子情報としてすり込まれていないそうです。「子どものために」と思って行っている様々な援助を、子どもの自立に結びつくのかどうかという観点から、今一度見直すことが必要ではないかと考えさせられた週刊誌の見出しでした。

= 自立のための10のポイント = (これが全てではありません)

- | | |
|------------------------|---------------------------|
| 1. 朝、決まった時刻に自分で起きられるか。 | 6. テレビ・ゲーム・ネットを自分でやめられるか。 |
| 2. 元気に学校へ行けるか。 | 7. 自分で勉強が始められるか。 |
| 3. 自分で整理・整頓ができるか。 | 8. 約束が守れるか。 |
| 4. 友だちと元気に外で遊べるか。 | 9. 家で決めた仕事をやれるか。 |
| 5. 良い・悪いのけじめがつけられるか。 | 10. 夜、決まった時刻に自分で寝られるか。 |

人間は、一日に10回以上は、それを「やるか」「やらないか」の決断に迫られています。そのとき、少しづらくても「よし、やろう」という行動を選ぶのか、それとも「やらない」「後回し」の行動を選ぶのか…。その毎日のたたかひの勝負によって、「自立」の進度も大きく変わってきます。毎日後者の行動ばかり選び、「内面のたたかひ」にやぶれてしまう子は、将来どのような生き方をするのでしょうか。自立した子どもを育てるとは、自らに問い、自ら正しい答え(価値観)を見つけたし、きちんと行動できる、一言でいうならば、「自問自答」できる子どもを育てていく、ということと考えます。

=今川義元が家臣に命じた徳川家康への「むごい教育」=

次のような逸話があります。「海道一の弓取り」の異名を持つ戦国時代の武将今川義元は、竹千代（家康）を人質にとりました。義元は、家臣に対して「竹千代にむごい教育をせよ！」と命じたそうです。それを受けた家臣は、竹千代に対して粗末な食事しか与えず、朝から晩まで休み無く、くたくたになるまで武術や学問、力仕事をさせました。ところが、このことを伝え聞いた義元は激怒したのだそうです。命令通りにしたはずなのに、なぜ義元は怒ったのか納得がいかない家臣に対し、義元はこう言ったそうです。「人質の竹千代には朝から晩まで、海の幸や山の幸、好きなだけご馳走を与えよ。寝たいと言ったらいくらでも寝かせてやれ。夏は涼しく、冬は暖かくしてやれ。武術の稽古や学問が嫌だというなら一切させなくて構わない。何でも好き勝手にさせたら良い」その言葉に家臣達は、自分達が思い描いていた「むごい教育」とは正反対の命令に、ますます混乱してしまいます。すると義元はこう言いました。「そのようにすれば、たいていの人間はダメになるからだ」つまり、「むごい教育」とは人間をダメにする甘やかした教育のことだというわけです。「子ども自身が考え、行動し、成長するチャンス」を奪う、そんなことの無い教育を行っていきたいと思います。



「15の春自立シート」(1.0版)

No	自立項目
1	✓ やるべきことの順番をつけて、一人でコツコツと勉強に向かうことができる
2	✓ 自分にあった学び方を知っていて、その学び方が身についている
3	✓ 学ぶことが楽しいと思っている。自分で決めることの楽しさ・大切さを知っている
4	✓ 自分自身の良いところ、強みについて自信を持っている
5	✓ 失敗したことを落ち込まず前向きに捉え、次に生かすことができる
6	✓ 毎朝、一人で起きることができる。規則正しい生活ができる
7	✓ こそぞという時に、頑張ることができる責任感を持っている
8	✓ 時間や約束を守ることができる
9	✓ 自分が大切にされてきたことを知っており、日々の「当たり前」に感謝し、自分も周りを大切にできる
10	✓ 少なくとも自分がされて嫌なことは人にせず、自分がしてもらって嬉しいことを人にできる
11	✓ 自分から挨拶できる
12	✓ 自分から知らない他者に話しかけて、コミュニケーションできる
13	✓ たくさんの人の前でも自己紹介できる等、自分のことを説明できる
14	✓ ふるさと利島の良さと課題を自分なりに話すことができる → ふるさと立川の良さと課題を自分なりに話すことができる。
15	✓ 生活のお金と遊ぶお金を分けるなど、自分でお金の管理ができる
16	✓ SNSの良さとリスクを理解し、使いこなすことができる
17	✓ 意見が違う人の良いところを見つけ、話をよく聞くことができ、同じくらい話すこともできる
18	✓ 簡単に人や情報を信じ込まずに、嘘か本当かを見極めることができる。
19	✓ 困ったときに、その内容を正確に伝え、助けを求めることができる
20	✓ 「人の好き嫌い」と「考え方の違い」を分けて考えることができる。
21	✓ 自分は一人じゃないということを理解し、命を大切にする意識を持续けている
22	✓ 自分の周りや地域を良くするために、考えて行動できる
23	✓ 読み・書き・計算など、社会で当然求められることを、行うことができる
24	✓ 分からないことが出てきた時は、インターネットや本などを使い、自分で情報を集めて整理ができる
25	✓ 自分自身のストレスの発散法について知っている
26	✓ 自分と異なる色々な特徴を持つ人がいることを知っている
27	✓ 正しい性の知識や犯罪・防犯に関する意識を持っている
28	✓ 自らが健康であるために、自分の食事を作ることができたり、洗濯、部屋の整理整頓ができる

2年生のホワイトボードに掲示されていた「15の春 自立シート」です。東京都利島村（としまむら）のホームページで紹介された資料のようです。



東京都利島村ホームページ

